

場所・面積

群馬県利根郡片品村、16,334ha

管理目的

- 【主目的】・東京電力リニューアブルパワー(株)の水力発電所の水源涵養のための土地及び森林・湿原等の保全管理
- 【副目的】・日本を代表する貴重な自然環境について土地所有者として保護管理し地域及び我が国へ貢献
- ・地元関係者と協働で自然保護活動を推進し、良好なパートナーシップを構築

サイト概要

- ・尾瀬国立公園は、群馬・福島・新潟・栃木の4県にまたがり、このうち当社は群馬県側を所有（国立公園全体の約4割、特別保護地区の約7割）
- ・唱歌「夏の思い出」でも唄われるように豊かな自然に包まれた国内最大級の山岳湿地である「尾瀬ヶ原」をベースに、多くのハイカーに親しまれている。
- ・「尾瀬ヶ原」には貴重な高層湿原が広がり、尾瀬特有の動植物の宝庫となっている。

土地利用の変遷

過去に幾度も開発の危機に直面し、そのたびに多くの人々の努力によって自然が保たれ、「ゴミ持ち帰り運動発祥の地」として我が国における自然保護の聖地とも呼ばれている。

サイト周辺の環境

関東地方太平洋側の最北部で最も奥山地に立地し、日本海側との分岐・分水嶺を包含する。

アピールポイント

- ・東京電力リニューアブルパワー(株)は、土地所有者として、およそ60年にわたり、湿原保護の木道整備、荒廃湿原の回復、山小屋や公衆トイレの浄化槽設置、自然観察ガイドといった様々な自然保護活動を地域の方々とともに実施している。
- ・とくに、「木道」は全体約65km(環境省や各県含む)のうち「約20km」を設置し、毎年、老朽化した箇所を計画的にリプレースしている。
- ・湿原を取り囲む尾瀬戸倉山林では、計画的な森林管理とともに間伐材の木道への活用と廃木道の紙資源化も進め、FSC森林認証を取得。
- ・近年では、SDGsのニーズが高まっていることから、尾瀬の豊かな自然環境と周辺地域社会をフィールドとし、STEAM要素も取り入れた体験学習・課題解決型の環境学習プログラムを試行し今後本格展開を目指している。
- ・また、自治体カーボンニュートラル活動の一環でもある、地元片品村ゼロカーボンパーク計画のメニューとして、設備の電化・再エネ活用や自然観察プログラム等で協働していく。



生物多様性の価値

価値（１）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

【選定されている制度名】

環境省 「重要湿地」 No.148 尾瀬ヶ原および尾瀬沼
(高層湿原、淡水湖沼)

【選定理由や内容】(以下、上記サイトより記載)

湿原植生、昆虫類において下記基準を満たしている

- ・基準1：湿原等の生態系のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している
- ・基準2：希少種、固有種等が生育・生息地としている場合
- ・基準3：多様な生物相を有している場合(ただし、外来種を除く)



写真の撮影年月：2019.8.5

写真の説明：尾瀬ヶ原



写真の撮影年月：2019.8.3(左)、2022.7.8(右)

写真の説明：サジバモウセンゴケ(左)、ハッチョウトンボ(右)

生物多様性の価値

価値（４）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】提供している「生態系サービス」

●供給サービス

- ・水：地域に立地する当社水力発電所の水源涵養
- ・木材：尾瀬戸倉山林(自社所有)管理にて発生した間伐材の(湿原保護用)木道材へ活用（FSC森林認証により木道にマーク付）
- ・紙材：木道廃材(10年程度で劣化しリプレイス)を回収しパルプ化し「尾瀬の木道ペーパー」とし製品化

●調整サービス（以下、全て試算値）

- ・脱炭素（炭素吸収固定）：尾瀬戸倉山林 約7.4千t-CO₂/年、湿原 約1千t-CO₂/年
- ・地下水涵養：約1億2千万m³/年、土壌流出防止機能：約1/144に抑制(植生なしの場合と比較した土壌流出量)

●文化的サービス

- ・尾瀬自然観察ガイド・SDGs探究型スタディーツアーによる学校教育への貢献及び尾瀬自然保護への理解推進等
- ・保健レクリエーション機能：尾瀬ヶ原散策によるセラピー効果、リラックス効果、観光・アミューズメント

【主な植生】

- ・湿原：ヌマガヤ・休ミズゴケ群集、ミヤマハナハゲ・タチミズゴケ群集、リウヅカ・ミズバショウ群集、ホバタマミクリ・ホバミナモト群集、セシウム・スギナ群集など
※価値(1)参照(環境省「重要湿地」No.148 尾瀬ヶ原および尾瀬沼 サイトより)
- ・山林：自然林(ブナ、ミズナラ、オオシラビソ等)、人工林(カラマツ、スギ等)

【確認された主な動植物】

- ・植物：リウヅカ *Caltha palustris* ニッソウガ *Hemerocallis middendorffii* var. *esculenta* ワタガ *Eriophorum vaginatum* 他
- ・動物：ホジヨ *Mustela ermine* Linnaeus（成体）アカライリ *Cynops pyrrhogaster* (幼体、成体) ハツコウトホ *Nannophya pygmaea* (成虫) 他



写真の撮影年月：2018.6

写真の説明：尾瀬の主な生態系サービスのファクター 3

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

尾瀬ヶ原及び尾瀬沼の南側に位置する「尾瀬戸倉山林」。尾瀬国立公園の特別地域に指定され、また、利根川水系片品川の最上部にあたり、首都圏の大切な水源の森であるとともに、尾瀬の自然を守るバッファゾーン(緩衝地帯)として重要

【主な植生】

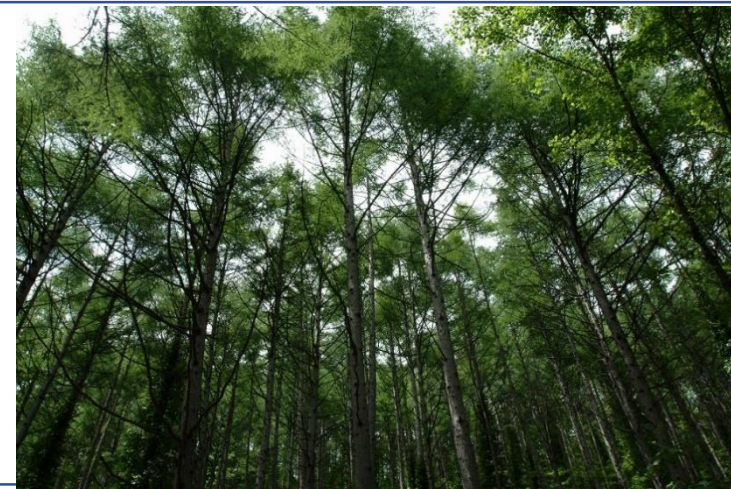
自然林(ブナ、ミズナラ、オオシラビソ等)、人工林(カラマツ、スギ等)

【隣接・接続する保護地域等】

「尾瀬戸倉山林」は、尾瀬国立公園の尾瀬ヶ原を含む特別保護地区（特別天然記念物）の南側に隣接する第1種・第2種・第3種特別地域に分布

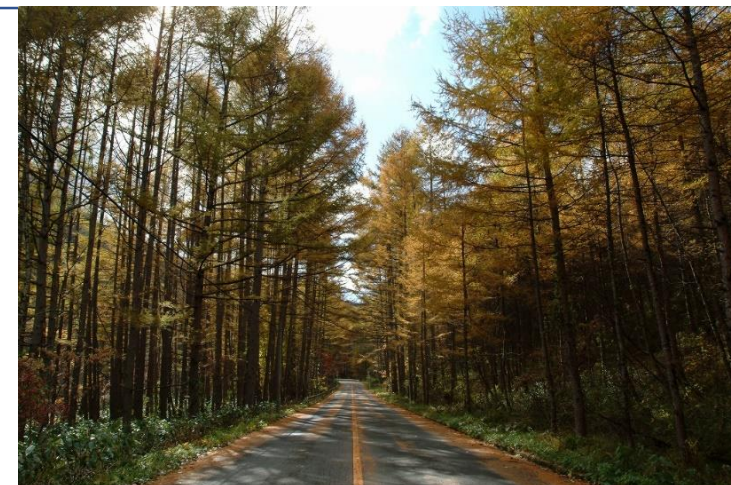
【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

尾瀬国立公園の特別保護地区（特別天然記念物）の緩衝機能を果たしている



写真の撮影年月：2012.7.30

写真の説明：カラマツ林



写真の撮影年月：2012.10.30

写真の説明：カラマツ林の紅葉

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
【管理計画の内容】 ・尾瀬土地等管理業務：毎年次継続で所有土地・設備における現況確認(危険個所、崩壊損傷箇所等の現地確認)及び必要な対策 ・尾瀬木道設置計画：毎年次継続で所有土地内木道について、現地確認により劣化損傷箇所を優先ランク分類整理し、架け替え工事に反映 ・尾瀬戸倉山林施業計画（片品村経由で群馬県へ提出） 施業計画(毎5ㄱ年で更新)にもとづき毎年次継続で順次林班を変えて間伐等管理	【モニタリング対象】 尾瀬戸倉山林 【モニタリング場所】 森林タイプ別に複数個所の調査 コドラート設置 【モニタリング手法】 現地調査、資料調査、関係者ヒア 【実施時期及び頻度】 毎年夏季各1回(2-3日)程度 【実 施 体 制】 ・FSC森林認証制度に伴う現地監査 ・フォレストック認定に伴う現地監査 ※いずれも、下記の体制 ・東京電力リニューアブルパワー(株) 委託 ・東京パワーテクノロジー(株)尾瀬林業事業所 対応 ・監査員(FSCまたはフォレストックより委任)